



### 技能向上研修会を新たな年につなぐ

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

新年早々、私たちに明るい話題が広がりそうです。

新春の公開映画『雪の花—ともに在りて—』は天然痘と闘った町医者・笠原白翁の物語。

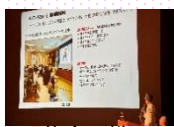
その前に！と銘打って12月の技能向上研修会では、今一度白翁をおさらいしました。“たとひ我命死すとも死ぬましき 人を死なさぬ道ひらきせん”長崎に向かう白翁の決意は映画ではどのように表現されるのでしょうか。たのしみです。

さて、技能向上研修会ではもう一つ『越前の伝説と紙芝居鬼の米袋』。縄文海進と当時の越前、今も神社に残る伝説などを解説され、その後、4人の女性会員で黒龍神社の伝説を自作の紙芝居で演じました。今までになかった企画に感動でした。

終了後の廊下では「打ち上げ会しましょう！」と上演を終えた喜びの声が聞かれ、とてもさわやかな研修会でした。皆さん！今年も力を合わせ頑張ってください。

## ■第11回観光ボランティアガイド 北陸大会in敦賀 ■先進地視察研修in滋賀

令和6年度(2024) 第11回 観光ボランティアガイド北陸大会in 敦賀が11月14日(木) 敦賀のきらめきみなと館で、開催されました。約200名の参加者。



研修会の様子

「語り部」からは16名の参加でした。

「北前船が運んだ昆布が今世界へ～世界を席卷する和食文化～」の講演会が行われました。

その後、各団体の発表があり昼食を挟んで各コースに分かれまちあるきが行われました。



12月1日福井市歴史ボランティア「語り部」の先進地視察研修として今回は滋賀県に出かけました。



朽木の興聖寺

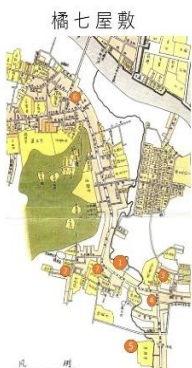
研修先は、滋賀県高島市朽木の興聖寺、大津市大津歴史博物館、大津市園城寺三井寺、大津市石山寺でした。



三井寺にて

## ■勉強会グループ勉強会、頑張っています！今回は2グループを紹介します

### 橋曙覧グループ



- ① 橋七屋敷
- ② 橋七屋敷の北側
- ③ 橋七屋敷の南側
- ④ 橋七屋敷の東側
- ⑤ 橋七屋敷の西側
- ⑥ 橋七屋敷の南西側
- ⑦ 橋七屋敷の北西側
- ⑧ 橋七屋敷の南東側
- ⑨ 橋七屋敷の北東側
- ⑩ 橋七屋敷の南東側
- ⑪ 橋七屋敷の北東側
- ⑫ 橋七屋敷の南東側
- ⑬ 橋七屋敷の北東側
- ⑭ 橋七屋敷の南東側
- ⑮ 橋七屋敷の北東側
- ⑯ 橋七屋敷の南東側
- ⑰ 橋七屋敷の北東側
- ⑱ 橋七屋敷の南東側
- ⑲ 橋七屋敷の北東側
- ⑳ 橋七屋敷の南東側

橋曙覧勉強会グループは橋屋の七屋敷の位置を探るまち歩きを行いました。橋栄一著「越前の豪商「橋屋」の第5章 橋七屋敷の部分の資料をもとに7か所の橋屋七屋敷の跡地を探るまち歩き」の勉強会でした。

お天気や、紅葉にも恵まれて楽しいひと時でした。



### 越前の伝説グループ



定期的集まって勉強会をしています。巻頭言にありますように技能向上研修会で、座学あり紙芝居ありの、手作り感満載の発表ができました。

## ■低学年の授業にひと工夫！！

中藤小学校3年生の授業で、柴田勝家が造った舟橋についての説明。歴史を理解するにはまだまだ難しい低学年。子どもたちが無理なく興味が持てるように工夫しました。舟橋の模型を黒板に用意してみました。

「舟を並べたい人は手を挙げてください」と語り部が呼びかけます。ほとんどの子が手をあげます。子どもたちの生き生きとしたまなざしがとても頼もしい光景でした。



授業の様子

## ■福井県観光ボランティアガイド研修

10月2日(水)と10月31日(木)福井県観光ボランティアガイド連絡協議会主催の先進地視察研修会がありました。2日は高岡市へ31日は宇治市方面へ。各日現地のボランティアガイドクラブとの意見交換会に参加してきました。

今回は福井県の11団体の参加があり、我々の団体からは、2日は5名、31日は、8名が参加しました。31日は黄檗宗大本山の萬福寺、宇治上神社、平等院鳳凰堂を見学しました。



黄檗宗萬福寺

## ブログ うららのまち「語り部」ふくい



活動の様子や福井の歴史を発信しています。



## ホームページ 歴NAVIふくい



ガイドや歴史講座などを紹介し、申込みを受け付けています。



## YouTube 福井の歴史を紹介



福井の史跡や歴史などを配信しています。



## よもやま話

## 空襲を語り継ぐ

平野 和夫

12月10日に日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞した。混迷する世界情勢の中での受賞には世界中の人々が心から称賛し、現状解決への一縷の望みにつながる期待を寄せたに違いない。被爆地長崎を思うとき、小学生かと思える少年が亡くなった幼児をおんぶし、火葬の炎を食い入るように見つめ順番を待つ写真「焼き場に立つ少年」が目につく。ローマ法王が世界中に広めるよう呼びかけた写真であり、戦争の愚かさ悲惨さを如実に伝えている。

昭和20年7月19日、福井市も空襲を受けた。亡くなった人は1,500人余り。『福井空襲史』には、自らの空襲体験を一人でも多くの人々に伝えたいと渾身の思いで綴った声が多く載せられている。昨年、私たちの「語り部」創立から携わり“自らの空襲体験を伝えることこそ私の使命”と、小さな子供たちに、時に涙を流しながら語り伝えた田中文夫さんが逝去された。誠に残念でしかたない。もう私たち語り部にはこのような体験を持つ人はほとんどいない。しかし、体験を持たなくても語ることはいくらでもできる。実際、富山市では多くの犠牲者を出したことで“高校生による語り部活動”が始まっている。

わたしたちが福井城址をガイドをする時、お堀ではたくさんの人たちが難を逃れ飛び込み亡くなったこと。また毎年「福井城址お堀の灯り」という鎮魂のイベントも行われていること。



焼き場に立つ少年

百間堀のガイドでは足羽川に繋がる元排水路の外記様町川で106人もの人々が一塊になって亡くなった悲劇を交えて語る。その機を捉えれば普及活動は可能である。

歴史のみえるまちづくり協会に空襲体験紙芝居「いくさの少年期」を備えていただいた。「不死鳥福井」を語ることは私たちの大きな使命。いつまでも忘れずに活動に励みたい。



外記様町の慰霊碑



### 【編集後記】

今年には柴田勝家が北庄城築城を始めて450年目の年。福井のまちの原型を作ったといわれます。あらためて歴史のみえるまち「ふくい」を考えてみたいと思います。

### 【発行】

福井市歴史ボランティア「語り部」  
(公財)歴史のみえるまちづくり協会